

12 水のめぐみ

江戸時代から明治時代にかけて水田開発のため水を引く堰が築かれました。下流の村々が水利権(水を利用する権利)を持っていたため夜間瀬川や樽川流域から水を引くことができず、遠くの雑魚川などの流域からから苦勞して堰を引きました。

横倉堰は焼額山北斜面の大沢などから取水しています。須賀川堰は大沢のさらに奥から取水しています。現在は剣沢ダムが造られ、これらの堰は統合され水田灌漑やスプリンクラーによる散水が行われています。毎年子どもたちが現地を訪れ学習しています。

上条堰は岩菅山麓のアライタ沢から上条まで引いた堰で全長23kmにおよぶ用水路で、現在でも堰を見守る水番が行われています。寒沢堰はガラン沢(現群馬県中之条町)を水源として硫黄ガスに苦しめられながら完成した堰です。現在は発電用水に使われています。

志賀高原を水源とする河川の豊富な水量は水力発電に利用されています。



スプリンクラーによる散水(夜間瀬)



堰の取水口に学ぶ



アライタ沢



平穏第一発電所(志賀高原十二沢)



長い距離の堰。
築くのには苦勞
が多く大変だっ
たね。

ぼくたちも剣沢
ダムへ学習しに
行きたいな。

